

教員への道のり

吉田 直昭

1. 教員を目指した理由

私が教員になりたいと思った理由は、自分が学生時代にたくさんの先生方にとってもお世話になったので、次は自分が生徒を支える先生になりたいと思ったからである。教員を目指すきっかけにもなった自分の学生時代を振り返ることができたのも、何気なく履修していた教職課程のおかげでもある。自分は中学生の時に、男子バレーボール部に所属しており、監督の紹介で大阪の私立高校への進学を勧められたが、学費のこともあり公立高校への進学と迷っていた時期があった。その時に部活の顧問の先生や、当時の学級担任の先生やその他多くの先生に相談にのってもらい、私立高校への進学を決心することができた。教員の仕事は、生徒の今後の人生の分岐点に関わる仕事なので、やりがいと共に大きな責任もあるので、目指すからには立派な教員になれるように準備を始めた。

2. 教員への道のり

教員になるため、教員採用試験に合格するためには、人一倍努力することが大切である。教員になるためには、生徒に分かってもらえる授業力、規則を守らせる指導力、生徒の疑問に答えることができる学力、そして教員になりたいという熱量が必要であると私は考える。ただひたすらに過去問や問題集を解いたり、参考書を読んでいるだけでは教員になることは難しい。面接や場面指導、模擬授業の練習も、教員になるための必要な対策である。ただし、上記のような練習は一人ですることは難しく、複数人でやることで大きく意味を成す対策であるとは私は考える。そのためにも、空いている時間にサポート室に通い、指導員の先生に面接練習などをやってもらうことが大切である。面接練習や場面指導練習の際は、様々な質問に対する応答や対応をあらかじめ用意し、その対策で違和感やおかしな点などを指導員の先生と共に突き詰めていき、実際の面接、場面指導試験までに修正することができていれば、このような試験ではいい結果を残せるであろう。また、地域によっては模擬授業が試験として課される地域もあるので、教科教育法の授業や、学内で実施される模擬授業練習会で積極的に模擬授業をおこなったり、他の学生の模擬授業を見学して新たな発見をすることも合格するために必要なことである。それと同時に筆記試験の対策も進めることで教員採用試験に合格し、教員になることができると私は思う。また教員採用試験の間近に教育実習が入る可能性もあるが、それを不利ではなく有利と捉えることが大切である。私はスクールサポーターや塾講師、学童のアルバイトをしていなかったのですが、教育実習が初めて生徒と触れ合う機会になった。実習が始まるまでは、直近に教員採用試験があるのに試験勉強ができないとネガティブな気持ちになっていたが、いざ実習が始まり、生徒と触れ合っていくうちにより教員になりたいという気持ちになり、実習だけでなく試験勉強のモチベーションにもつながった。

3. 教員を目指す後輩へ

教員採用試験の合格率や出願数は年々下がってきているとはいえ、社会科は常に5倍以上あり、自治体によっては現役の合格率がとても低い地域もあります。しかし、合格率は低いと言っても0ではありません。たとえ突破することが難しい壁が目の前に現れたとしても、決してあきらめることなく、努力を重ね、教員になるという気持ちを誰よりも強く持ち、教員採用試験の勉強や教育実習に向けての準備を進めてほしいと思う。神戸学院大学にはたくさんの教職履修者がいるので、同じ夢を持つ仲間と共に、サポート室によって励ましあい、互いに切磋琢磨しながら一人でも多くの合格者が出ることを心から望んでいます。